

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075800310		
法人名	社会福祉法人 内野会		
事業所名	グループホーム 鴨生の里		
所在地	〒820-0206 福岡県嘉麻市鴨生693番地1	Tel 0948-42-2790	
自己評価作成日	令和元年10月25日	評価結果確定日	令和元年12月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	Tel 093-582-0294	
訪問調査日	令和元年12月02日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム鴨生の里は、天井を高くとり、木の温かみを感じられる開放感溢れる作りになっています。また、中央に皆様の共有スペースを設け、その周辺を取り囲む様に各居室があります。皆様、お部屋を開ければ共有スペース(ホール)が目に入るので、自然と中央の共有スペースへと集まり過ごされています。朝は、まず体操を行い今日のスケジュール説明、そして歌を唄ったり物作りなどのレクリエーション活動と皆様に楽しんで頂く為に色々と考え 提供し賑やかに過ごしております。また、鴨生の里は、料理の得意なスタッフも多く、盛り付けにも工夫を凝らして毎日、美味しいお料理を提供させて頂いています。そして、今年より施設横の畑を借りて菜園作りを始め、皆で収穫をし、その野菜を使った料理を提供させて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「鴨生の里」は県道沿いの利便性の良いバス停の真ん前に位置し、17年前に開設した定員9名のグループホームである。中央のリビングルームは吹き抜けの天井で、明るい雰囲気の中で、職員が利用者とコミュニケーションを取りながら、利用者中心の暮らしの支援に取り組んでいる。毎週往診の協力医療機関の医師と、看護師、介護職員が連携し、利用者の小さな変化も見逃さず、利用者の健康増進に繋げている。安全な食材と調味料を使って職員が、交代で作る愛情たっぷりの料理を、ほとんどの利用者が完食して健康の源になっている。また、外部の研修会や資格取得を積極的に奨励し、職員の介護技術と知識の向上に取り組み、質の高い職員が優しい笑顔で利用者へ寄り添い、元気で明るい笑顔の利用者を見守る家族の喜びは深く、利用者や家族から高い評価を得ているグループホーム「鴨生の里」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、理念を唱和し、入所者様に常に寄り添いやすらぎを感じられるよう 努めております。	ホームが目指す介護サービスの在り方を示した理念を玄関に掲示し、理念の意義や目的を職員一人ひとりが理解できるように工夫し、利用者が住み慣れた地域の中で、家族や関係者に支えられて、生きがいと安らぎのある生活を送る事が出来るよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月に一度の地域で開催される「いきいきサロン」へは欠かさず参加し、地域との交流の場としている。また、近くに系列のグループホームが有るので、交流の意味を込めて合同行事の回数も増やしている。	利用者と職員は敬老会に参加し、同法人施設の秋祭りに出かけ、中学生の体験学習やボランティア等の受け入れを行い、地域交流の輪を広げている。また、近隣の公民館で行われる「いきいきサロン」に、数名の利用者と職員が参加し、地域住民と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロン・サザンカフェなどに参加した際、お話しする機会が有る。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議には、ご家族様の参加もあり、様々な事に付いて意見交換をし今後のサービスの向上に努めている。	会議は2ヶ月毎に開催し、ホームの運営や取り組み、課題やヒヤリハットなどを報告し、参加委員から質問や要望、情報等の提供を受けて意見交換を行い、ホームの運営やサービスの向上に反映させている。会議に参加することで、知識や情報を得る貴重な会議になる様に工夫している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の時や普段から、問題とされていることなど積極的に伝え、協力を得ている。	グループホーム連絡協議会に参加し、困難事例についての話し合いや情報交換を行い、行政と連携を図っている。運営推進会議に行政職員が参加し、ホームの現状や取り組み、課題等を伝え、助言や情報を提供して貰い、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	PCで受ける研修や運営推進会議などでも、話し合いや勉強する機会を設け、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の職員研修が義務化され、外部の研修会や職員会議の中で、身体拘束について学び、言葉や薬の抑制も含めた拘束が、利用者に与える影響について職員が理解し、禁止行為の具体的な事例を挙げて話し合い、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。玄関は日中は開放し、職員の見守りで利用者が自由に出入りしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	PCで受ける研修や月に一度の職員ミーティング・毎月行われるシルバーケアでの全体会議などで学ぶ機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員ミーティングや全体会議などで学ぶ機会を持ち、話し合っている。	外部研修を受講した職員が伝達研修の中で、職員一人ひとりが制度についての理解を深めている。利用者や家族の高齢化等により、今後制度の必要性を感じる事から、資料を用意し契約時に説明を行い、必要になれば制度を活用出来る支援体制を整えている。現在、権利擁護の制度を活用している利用者はいない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を掛け十分、説明をして納得された状況で契約を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月の請求書を送付する際、写真付きの行事報告や近況報告などを必ず送付させて頂いたり、日頃より ご家族様との連絡は密にしている。また、来所された際なども駆け寄り、話しやすい雰囲気作りにも努めている。	職員は日常生活の中から利用者の思いや意向を把握し、面会時や電話、メールのやり取りの中で、家族の意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。クリスマス会を兼ねた家族交流会を毎年開催し、スライドショーで利用者の暮らしを報告し、直接家族の要望を聴く機会を設けている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	普段より、疑問に思っている事は伝えてもらっているが月に一度の職員ミーティングでも意見を聞いて話し合っている。	法人会議の後に職員会議を毎月定期的に行い、職員全員が参加し、勉強会も含め2時間しっかりと話し合いを行っている。毎回数名ずつ利用者のカンファレンスを実施し、担当職員を中心に意見を出し合い、ケアの統一に努めている。外出やレクリエーション、行事についても活発な意見が出され、出された意見を出来るだけ運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力に関しては、称賛の意を表す様になっている。どうしても、終わらない作業なども時間外申請が出しやすい環境にしている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員、個々の能力を発揮できるように配慮している。	職員の募集は、年齢や性別の制限はなく、採用後は外部研修の受講を促し、内部の勉強会をしっかりと行い、介護技術の向上に取り組んでいる。管理者は、職員の特長や能力を把握し、適材適所の役割分担を整え、職員が働きやすい職場を目指している。また、資格取得のためのバックアップ体制を整え、職員が意欲的に働ける就労環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	常日頃より申し伝えているが、職員ミーティングなどでも話しをする機会を設けている。	利用者の人権を守る介護の在り方について、外部や法人内の研修会に参加した職員が、伝達研修を行い、職員の理解を深めている。職員は、言葉遣いや対応に注意し、利用者が、ホームの中で尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	PC上で行う研修を受講している。また、多くの職員が様々な研修を受ける機会を勧めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などに参加した際などに、同業者と話す機会を設け、取り組みに向けている。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分、時間を掛け話し合いを行い安心して頂ける様、配慮している。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス計画を立てる段階でご家族様の意見や要望をしっかりと聞きじっくりと話している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話し合いを重ね、様々な提案をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お話しをする機会をたくさん持つ事で、教えて頂く事も多々あります。また、お手伝いをお願いすることもあり、持ちつ持たれつの関係性が築けている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは、普段より様々な報告を密に行っているが、その中で ちょっとしたエピソードを加え、より一層親近感を抱いて下さるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達の来所の際など、またお越し頂ける様、お声掛けをしたり、帰宅願望の有る方と共に、ご自宅へ出向いて行ったり支援している。	利用者の昔からの親友が訪ねて来て、楽しいひと時を過ごし、昔を思い出している。家族の協力で、馴染みの美容室に継続して通っている利用者等、入居時に利用者の人間関係や地域社会との関わりを聴き取り、アセスメントに記録し、職員全員で共有しながら、利用者の馴染みの関係が、ホーム入居で途切れないような支援に取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	どうしても、性格上「合う合わない」が生じるので、状況を見て席替えなどを行い、関係性が悪化しないよう早めに対応している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	気軽に立ち寄って頂けるような声掛けを行っている。それに依り、知り合いの方を紹介頂いたり繋がっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人一人の思い、暮らし方などを全職員が把握し、ミーティングなどを通じて それに向け話し合う機会を作り対応している。	ホームでの暮らしの中の会話から、職員は利用者の思いや意向を聴き取り、職員が利用者に寄り添いながら、出来るだけ実現出来るように取り組んでいる。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で話し合い、利用者の表情や仕草から思いに近づく努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際など時間を掛け職員へ伝えている。気を付けなくてはいけないことなども含め、情報共有に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の朝・夕の申し送りの際などに、全入所者様の様子を伝達し、新しい発見などを含め情報共有に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、ご家族様の意向を聞き、生活リハの場面では理学療法士・作業療法士などの意見を聞きケアミーティングで話し合いを重ね、計画担当者が作成している。	利用者や家族の意見や要望を聴き取り、カンファレンスやモニタリングを行い、職員の気づきや提案を採り入れ、利用者本位の介護計画を短期3ヶ月、長期6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い、現状に即した介護計画の見直しをその都度行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一遍通りにならないように、「今日の気づき」などを大切に、記録へ留めるよう常日頃より申し伝えている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人様、ご家族様との話し合いを重ね、出来る限り柔軟に対応を行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人の嗜好、楽しみ方は様々ですが、個々が楽しみを見つけ心豊かな生活が送れるよう支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	些細な変化なども細かく申し伝え、それに対して柔軟に対応して下さっている。	契約時に利用者や家族の希望を聴き取り、主治医を決めている。現在は、3分の1の利用者が、入居前からのかかりつけ医で、家族対応で受診している。また、協力医療機関の医師による往診や訪問歯科を週1回利用し、適切な医療が受けられるよう、きめ細やかに支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	個々のちょっとした変化や心配や思える事など、申し伝え、支持を受け対応に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は出来る限り、病院へ出向き 現在の状況などの把握に努め、早期の退院に向けられるよう病院関係者と連絡を取り合っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者様の状態変化が生じた場合など、ご家族様、主治医と話し合いを重ねその方向性に向けてチームで支援に取り組んでいる。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」を基に、ホームで出来得る支援と、病院でしか出来ない支援について利用者や家族に説明し、承諾を得ている。利用者の状態変化や重度化に合わせて、家族や主治医と話し合い、終末期の過ごし方が安心できる環境整備に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員ミーティングなどで訓練、シミュレーションを行い、即座に対応できるように申し伝えている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練年2回、風水害避難訓練年1回を実施して全職員が即座に対応できるようにしている。	自主防災組織による避難訓練を、消防設備点検時に合わせ、夜間想定を含め年2回実施している。通報装置や消火器の使い方を確認し、避難経路、非常口、避難場所を確保して、利用者が安全に避難出来る体制を整え、近所にある同法人施設との協力体制も整っている。また、事務所に非常持ち出し袋を用意し、飲料水、非常食の備蓄の準備をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損ねないような言葉かけには、特に気を配り人格を尊重し、その時々々に配慮した対応が出来るよう徹底している。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を、職員間で日常的に話し合い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した排泄や入浴の支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	事ある場面で常に、話しをする機会を持ち、ご本人様の思いや希望を受け止められるように支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様のペースで毎日を過ごせて頂いている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お部屋に鏡を置き、鏡を見る機会を増やして頂いている。また、入浴の際など ご自分でお洋服を選んで頂いたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を作る際には、盛り付けなどにも工夫を凝らしている。また、芋づる、フキ、土筆など季節の物を頂いた時など、皆様にお手伝い頂いたり、テーブル拭きなども気持ち良く行って頂いている。	食事は旬の食材(隣の畑の畑の大根等)を使った、職員手作りによる家庭的で美味しい食事が準備され、手作りの柚子みそやデザートが添えられ、楽しい会話の中で食べる料理は、利用者の食欲増進に繋げている。また、月1回パン屋さんが来訪し、パンを買ったり、外食に出かける等、利用者が食べたいものを食べられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量の記録や日々の状態把握に努め、栄養、水分摂取が促せるに努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分でできる方には、声掛けにて促し、介助が必要な方々は洗面所へお連れして毎食後、口腔ケアを行っている。また、全員の方が毎週、月曜日に歯科受診を受けていて、歯科医からも指導を受けている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	こまめな自然の声掛けで排泄の失敗が無いよう声掛けて自立に向けた支援を行っている。	利用者が重度化しても、職員2人態勢でトイレで排泄することを基本とし、各居室のトイレで排泄支援をしている。職員は利用者の排泄パターンを把握し、利用者の表情や仕草を察知して、声掛けや誘導を行い、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、夜間は利用者の希望を聴きながら、出来るだけトイレ誘導を行い、オムツやリハビリパンツの使用軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝の体操の時に便秘に効果が有るとい体操を取り入れたり、ホール内を職員と共に歩いたり、牛乳、ヨーグルトなどを飲んで頂いたり、個々に応じた対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週3回(火・木・土)と、なっているが、その日に受診や外出などで入れなかったりする時には別日に対応できている。	入浴は利用者の希望や健康状態に配慮し、週3回(火、木、土)を基本としている。柚子湯や菖蒲湯等、楽しい入浴になるよう支援している。開設17年目であるが、浴室、浴槽の清掃も行き届き、利用者が気持ち良く入浴が出来る環境を整えている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	テレビを遅くまで見られる方、早く横になりたい方、個々に合わせた対応を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬内容は表にして、いつでも見られるようにして確認している。また、職員2人で声出し確認を行い誤薬が無いよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとに外出などの計画を行い、気分転換を図っている。洗濯干し、洗濯たみ等、役割を持ちいきいきと暮らせるよう支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅願望の有る方には、常々、ご自宅を確認するため同行したり、少し遠い商業施設へ行きたいとの希望が有った際にも、安全を配慮して対応するように努めている。	気候の良い時期は散歩を兼ねて近所のお店へ買い物に出かけたり、隣の畑を覗いたり、なるべく外に出掛けるように心がけている。「いきいきサロン」や法人行事に利用者と職員が参加したり、外出レクレーションを企画して、コスモス、彼岸花、紅葉等、季節の花見に出かけ、外食して帰ってくる等、利用者の気分転換を兼ねた外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お預かりしているお金の事は、入所者様全員へお伝えし、必要な物や、欲しい物が有るときには、一緒に同行したりして購入出来ている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	実際に手紙を投函したり、配達された手紙をお渡ししたり、電話を掛けたりは普段、様々な場面で行われている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に清掃を行い、障害物など無いように安全面にも心がけている。また、入所者様の気になる音や光など極力、排除して穏やかな気持ちで生活出来るように努めている。	吹き抜けで開放感のある共用空間は広く、大きな窓から日が差し込むと、職員が、「日向ぼっこしましょう」と利用者に声をかけて、窓際のソファーに移動し穏やかに過ごす利用者の姿が見られる。季節毎に利用者と職員が共同で制作した作品や、毎月取り組んでいる習字の作品、利用者の笑顔の写真を掲示し、アットホームな空間作りに取り組んでいる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースには、(食卓テーブル・陽だまりのソファー・長ソファー)など、各々が好きな空間で過ごして頂けるように配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様と話し、馴染みの物や趣味の物などを置くなどして、落ち着いて暮らせるように配慮している。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者が長年使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、生活必需品等を、家族の協力で持ち込んで貰い、利用者が穏やかな気持ちで暮らせるように配慮している。障子の付いた窓の外に向かって椅子が置かれ、寛げる雰囲気の居室である。また、掃除が行き届き、居室にはそれぞれトイレが設置され、利用者のプライバシーを確保し、安心して過ごせる支援に取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペース、各居室の両方に於いて、障害物を置かず、動線を考え安全に過ごして頂けるように努めている。		